

わいがやサロン 通信

号外
2017.5

だったそう。膝やお尻部分がじきに擦り切れるため、丈の要らない羽織や子ども物などに縫い替え、それが傷むと丈夫なところをパッチワークのように縫い合わせ額縁布団に、と作り変えていってダメになるまで使ったものだと話してくれました。会場にも別布で縫い足してあるきものが下がっていて納得しました。



次は徒歩にて「旧小田切家住宅」へ。小田切家は須坂の製糸業に貢献した豪商の家で大笹街道と谷街道が交差する交通の要衝にあります。空き家になり朽ちかけていたのを須坂市が買い取り、整備を進め、昨夏より一般公開。展示スペースでは「岡信孝日本画展」が開催中。カフェ機



能ももたせており、一同はソフトドリンク&須坂名物お煎餅を供され一休み後、庭へ出て、記念写真。須坂器械製糸発祥の水車小屋をバックにスナップ写真を撮る人もいました。



そのまま蔵の街をそぞろ歩きして次に目指したのは割烹・能登忠。女将より和装の心得、信州が紬の産地であること、「信州須坂藩 堀直虎物語」(冊子配布)についてのレクチャー後、こちらおすすめの昼食メニュー・花籠に舌鼓を打ちました。



あとは一路長野を目指すのみです。(首都圏

からのグループの皆さんはこれから先も向かう場所があるとのことと能登忠前にてお別れしました。)

13:30過ぎにバスはTOiGO広場前に到着し、皆さん無事に解散。新田町・表参道は、きもの+ヘアメイクショー「ナガコレ」などで大賑わいでした。

次回もたくさんの方々のご参加をお待ちしています。



第6回 花遊歩 牛に引かれて善光寺参り

はなゆうほ

ゆったりきものでまちめぐり

第2回 信州きものDay



きものは、かつて養蚕・製糸業で栄えた信州の伝統文化のひとつです。門前まちときものどがとけ合うことで、長野の魅力をより一段と高めていきたいと、全国的に知られている故事「牛に引かれて善光寺参り」にあやかって2012年から始めた「花遊歩」。今年は昨年と同じく、善光寺花回廊や表参道芸術音楽祭で賑わうGWでの開催となりました。昨年初めて催した「信州きものデー」をさらに発展させた1泊2日の滞在型イベントとなり、「花遊歩」もその中に織り込んで行いました。

- 開催日 「信州きものデー」2017年5月3日(水・祝)→4日(木・祝)「花遊歩」同5月3日(水・祝)
- 参加者 1日目 50名(花遊歩のみ 25名/1泊2日 25名)
- 主催 信州きものデー実行委員会 [構成団体] NUPRI (NPO法人長野都市経営研究所)、須坂クラシック美術館、信州着物の似合うまちネット
- 後援 長野市、善光寺、長野商工会議所、中央通り活性化連絡協議会



「門前まち花遊歩」の6年

第1回	2012年 9月1日(土) 55名	円乗院にて精進料理/界限街歩き
第2回	2013年10月6日(日) 68名	大勧進にて精進料理/大本願雅楽
第3回	2014年10月5日(日) 54名	「善光寺表参道秋まつり」にあわせて
第4回	2015年 4月4日(土) 67名	「御開帳」にあわせ「日本一の門前町大縁日」のパレード先頭/玉照院にて精進料理
第5回	2016年 5月4日(水・祝) 58名	信州きものデー(須坂⇄長野) 同時開催
第6回	2017年 5月3日(水・祝)・4日(木・祝) 50名	花遊歩/第2回信州きものデー(長野・須坂 2日間)と同時開催



NPO法人 長野都市経営研究所

〒380-0834 長野市大字鶴賀問御所町1289-1丸本ビル2F TEL.026-235-7911 FAX.026-235-6166 www.nupri.or.jp e-mail:nupri@nupri.or.jp



花遊歩

昨年の「門前まち花遊歩～牛に引かれて善光寺参り～」終了後、参加者から意見を聞くワークショップ・アンケートにて「宿坊に興味がある/宿泊先として紹介してほしい」「精進料理を体験したい」ほかが出ました。それらを検討し、今年は「信州きものデー」を前面に掲げ、宿坊泊を含む2日間のスケジュールとし、故事にちなんで歩くイベントはタイトルを「花遊歩」と少々改め1日目に行くこととし、パンフレット配布およびインターネットにて参加者を募りました。(1泊2日プラン:先着40名/参加費1名2万円、「花遊歩」のみプラン:先着20名/参加費1千円。実行委員長:鈴木隆治NUPRI事務局次長)

総計50名(「花遊歩」のみプランは25名)の参加申し込みがあり、イベント当日を迎えました。

花遊歩

～牛に引かれて善光寺参り～

- 5月3日** 新田町交差点から大門にかけての善光寺表参道は朝9時から交通規制が敷かれ、昼近くともなると花々と人で埋まっていました。 **13:00** TOiGO 広場に設けたNUPRIテントで受付開始。 **13:30** ステージにて出発式。 **13:45** 和装の女性、女の子らが黒牛から繋がる紅白の綱を持ち、歩み始めました。(善光寺聖役:加藤久雄長野市長、北村正博長野商工会議所会頭、市川浩一郎NUPRI理事長/進行:鈴木隆治NUPRI事務局次長)



信州の冬は長く、待ち遠しい春が来たと思えばたちまちさまざまな花が一斉に咲きます。そして新緑もまぶしいゴールデンウィーク。「長野市善光寺花回廊」も今回で16回を数え、偶然訪れた観光客、めざしてきた人それぞれですが市民参加の花イベントとして定着してきました。「花遊歩」参加者も「花キャンバス(チューリップの花びらで描いた路上絵)」や農業高校生による「タベストリーガーデン」等、歩を進めることに変わる



コーナーに見入ります。沿道から「何の行列?」「牛がいるよ!何で!」「初めて本物の牛を見た!こんな近い距離で見た!」という声が飛び交い、まずの注目は牛のよう(千曲市からおいで願った松さん/昨年からのニューフェイス



です)。「『牛にひかれて善光寺参り』の現代版なんじゃない?」「きもの着なくなったねえ、」きもの着ている人たちは何なの?」という声も聞こえてきます。今年初の試みとして「花遊歩」の手旗を見物の人たちに配りました。小さな男の子が「牛さん、頑張れ」と振ってくれました。 大門南交差点を渡り切ったとこ

ろで休憩タイム(冷えたお茶を配布)。気温上昇し強い日が射すものの今年の牛歩は思いのほか速く「去年より楽」と参加経験者。喉を潤して再スタート。行列は善光寺参りする人を見定める仁王様の門をくぐり、仲見世の人垣を縫うように抜け、山門前へ。外国人観光客らがさかんにカメラのシャッターを押すなか加藤長野市長が到着報告。対して若麻績信昭 善光寺寺務総長より答礼をいただきました。その後、善光寺境内東公園へ移動し、新緑と黒牛の松さんをバックに数人ずつ記念の写真に納まりました。



大本願にて



大本願境内には、なごりのシダレ桜が5月の風に揺れていました。 **15:30** 鷹司誓玉尼公上人がお出ましになり、昨年お見せくださった「小袖屏風(ご自身の幼きころのと母上の愛用のきもの・帯を表装したそれぞれ二曲一双)」に加え、「今日はもう一つ出ております」と花鳥風月が描かれた扇面等を表装した屏風を示しました。絵の作者は大石順教尼という人で、養父錯乱事件により両腕を切られ、苦節の後、口で筆をくわえ、書画で身を立てるまでに。出家得度し障がい者のために尽力。養父のことも恨むことなく供養…。「順教尼の絵は色彩が優しく見るだけでこちらも優しい気持ちになります」。屏風左は元は羽二重の帯だった由。善光寺に入山する際にもらった歌「何事もむかしののりのあととめて みにおこなうぞ たふとかりけり」を黒板に記され、「世間的な豊かさや財産にこだわらない。心の宝を大切



花鳥風月が描かれた扇面等を表装した屏風

に。人を恨まず、人と和やかに暮らすことが何よりも大事」と締めくくられました。

今回の「花遊歩」特別ゲスト、郷土料理研究家の横山タカ子さん(長野市在住/きもの好き)からショートスピーチをいただいた後、ワークショップに移りました。5グループに分かれて「花遊歩」やきものについて話を交わし、MC役のスタッフが発表―「この時期の開催は暑い(5/3は25℃超え、5/4は27℃超えでした)」「(当イベントには喫茶サービスが付くが)女性に魅力なのはスイーツ」「長野市も京都などのように和装だとタクシーや美術館が割引されるといい」「筆笥の肥やしになっていた自分のきもの、母やおばから譲り受けたきもの・帯類がこのイベントのお陰で披露出来て嬉しい」「手ぶら参加(着物レンタル&着付けサービス)を望む」「GW中の2日間参加は難しい」ほか。最後に鈴木実行委員長が参加御礼を述べ、「花遊歩」コースの皆さんとは散会になりました。



宿坊宿泊

1泊2日コース25名の宿泊先は宿坊(39軒ある)、大本願と向き合う淵之坊です。最近、特に女性の間で宿坊や御朱印巡りが人気。実際今回、募集に宿坊泊とあるのを知り参加を決めた、高野山の宿坊経験がある、という方もいて、門前町長野をNUPRIがアピールするのに宿坊は恰好のツールだと再認識しました。また一度は体験してみたい おすすめの「宿坊」人気ランキングに淵之坊が1位(旅行予約サービス「楽トラベル」4/24発表/同1位に奥多摩の御岳山荘/10位中3つが善光寺宿坊)となったのは参加・主催者双方に望外のプレゼントでした。



さて、夕食はお待ちかねの精進料理です。当然肉魚なし、野菜・山菜・海の草に、北信濃の伝統郷土料理・じゃが芋のなます等も珍しく、見た目・味に堪能。ただ、初めてのきもの姿で長時間歩いた、しっかりと(きつめに)着付けられていたり、というきもの姿のままだったので「苦しかった」という声も。室町・戦国時代の人々の日常着「小袖」なら一日中着ていても大丈夫でしたでしょう。



5月4日 未明に起きて、本日のためのもろもろ準備をしてから「お朝事」に向かいました。お朝事とは、日の出とともに始まる大勧進・大本願両住職による善光寺本堂での勤行のことでありますがその往復時に住職が境内本堂前にてお数珠で念を授けてくださるのです。朝早いのに善男善女が大勢石畳に膝をついてお通りを待っていました。長野市民の中には春夏秋冬毎朝、足を運び、お数珠頂戴を励みにしている人もいます。善光寺宿坊に泊まれば本堂内陣にてのお朝事に立ち合え、有り難いお経や声明を間近で聴けるのも特典です。朝日



お数珠頂戴(おじゅずちようだい)

を浴びる仲見世通りの店々にはもう参拝から帰ってきた人々の姿がありました。そんな門前ならではの朝の風景を歩いて宿坊に戻ると朝食が待っていました。これまたおいしい精進料理の後、きものに着替えて(2人のプロがお手伝い)、宿を引き払いました。

きもの Day

蔵のまち・須坂へ

9:20 大本願Pを予定より少し遅れてバスは発車(参加人員は23名に)。きもの好きを共通項とする皆さん(昨年も参加された首都圏のグループ、奈良や仙台、千葉、伊那から一人参加した方、親子…)が同宿同飯したことで意気投合、宿坊や精進料理の話、昨日とは別なきものの方もいて、きものコーデ話など、車中は和気あいあいです。バスが街中から抜けると車窓の風景にも目が行き、「あの木の紅がかかった蕾は?」「りんごです。



りんごは葉が出てから可憐な花を付けます」「あの山は?」「戸隠、飯縄、斑尾、黒姫、妙高の美峰を長野では北信五岳と言っていて、あの場所で、あの形から言うと〇〇」…参加者の問いに添乗員いえスタッフが答えているうちにバスは千曲川を渡り、須坂到着。まず



「大虫干し会」の見学

は旧商家を修復した「須坂クラシック美術館」へ(ちなみにきもの入場者はいつでも割引)。2班に分かれ、銘仙の「大虫干し会」見学と香り袋づくり体験(上田綿使用)を交代で行いました。虫干しの座敷では、リアルタイムに銘仙を着た経験のあるボランティアのお話が聞けたことが収穫でした。銘仙は鮮やかで大胆な柄ゆきが魅力ですが、糸が弱いのが難点



上田綿を使った「香り袋づくり体験」

